

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

行<sup>ッ</sup>て良<sup>カ</sup>った大川の滝

神山小学校 五年 岩川 岳斗

「今どこにいるに<sup>レ</sup>と思<sup>イ</sup>ながら歩<sup>キ</sup>、すわとま<sup>ッ</sup>ていたあの絶景にた<sup>ヅ</sup>りつ<sup>ッ</sup>いた。

神山小学校で、島回りという行事があ<sup>ッ</sup>た。ぼくはやる気がな<sup>カ</sup>ったので、行<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>った。

でも、や<sup>ッ</sup>ぱり行<sup>キ</sup>たい気持ちもあ<sup>ッ</sup>た。そ<sup>レ</sup>んな時、ぼくの前に一本の光がさ<sup>シ</sup>た。そ<sup>レ</sup>

は、ぼくのお母さんが、島回りを車であ<sup>ッ</sup>ていくという係<sup>ダ</sup>った。ぼくは、車に乗<sup>ッ</sup>て行

くことにした。

ぼくは、どうせ参加<sup>カ</sup>下<sup>キ</sup>ないと思<sup>ッ</sup>ていて、ち<sup>ッ</sup>とさ<sup>ッ</sup>つイスリッパ<sup>ッ</sup>で行<sup>ッ</sup>た。

友だちの前を車が通<sup>ッ</sup>ろうとした時、なにかし<sup>ッ</sup>やべ<sup>ッ</sup>ているように見えた。車を止<sup>メ</sup>て、

よく聞<sup>コ</sup>えるように耳をかたむ<sup>ケ</sup>た。し<sup>ッ</sup>やべ<sup>ッ</sup>ていた言葉が、ぼくの前<sup>ニ</sup>立<sup>チ</sup>は<sup>タ</sup>が<sup>ッ</sup>て

いた行<sup>キ</sup>したくない気持<sup>チ</sup>のトビ<sup>ラ</sup>を開<sup>ケ</sup>た。  
い<sup>ッ</sup>し<sup>ッ</sup>よに歩<sup>カ</sup>な<sup>イ</sup>。  
と、明<sup>カ</sup>に言<sup>ッ</sup>ていた。

No. 1

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

ペットボトル一本を左手に持ち、歩き出した。きれいな海が見えていて、ぼくは、友達ちといて、しまに歩いたり、走ったりしながら人をめいていて、た。そして、友だちや六年生の人といて、しまに歩いた。周りが暗くなってきた。木々がしげうている場所に入ったのだ。スリッパがきつかったのでも、しまに足の皮がむけてきた。その皮がむけた所には汗が一テキーンと流れ出ていき、ぼくは思わず、「痛い。」

と大きな声でさけんだ。ぼくの痛みの声か、とびいていった。

だんだんと光が消えていき、くらやみになつてきた。ハエやアブがいっぱいいて、夕オルをふりまわしながら行った。ときどき、サルのふんがおちていて、サルがいるんだとおびえながら、一歩一歩進んで行った。

やつと休けいだ。アイスを食べ、少し休んで、また歩き始めた。それからまた光がさしてきた。山から水かたれている所もあり、

- 3 詩はどの行も三はんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

こけが光っていった。もうすぐゴールだと思  
 歩いた。

静かに歩くと、人の声や、滝の流れる音が  
 した。重たい足でゆくりゆくり歩いて行  
 くと、ぼくの前に大きな音をたたく、大きな  
 滝、そう、大川の流る音があつた。とんでくる  
 水が冷めた。ぼくは、大きなシャワーだと  
 思いつながら浴びていた。

昼ごはんは、大川の滝の絶景を見ながらの、  
 芋めんとした。たたく歩いておなかがす  
 いていったのか、いつもよりおいしく感じた。  
 落ちてくる滝の水のように、何はいつも芋め  
 んを食べた。芋めから、おとなで、スイカも  
 食べた。すごくシャキシャキして、あま  
 がつた。つがれがふつとんだ。  
 行こうか迷っていた大川の滝は、ぼくが見  
 た中では、日本一の滝だった。

No. 3

- 3 詩はどの行も三はんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

